

職員打合せにおいて「ICT 機器を活用した学習評価」についての実践交流

A:校内研修 I 型(日常的に行う研修)

このような教員の姿が生まれました!

- 同じツールを用いても、教師側の活用方法が違えば、様々な学習や学習評価が可能であることを学び、生徒の学習評価をする際に、他教科の活用事例を取り入れて、多様な方法で学習評価を行う先生が増えました。
- 「見方・考え方」について考える教科部会や、他教科の教員との交流を通して、各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習評価を行う教員が増えました。

「学び場」を利用した、「ICT を活用した学習評価」の実践交流

毎週の打ち合わせの時間を使い、日々の実践の中で行っている「ICT を活用した学習評価」について実践交流を行う。

- ・ 教員が集まる機会を利用して、「ICT を活用した学習評価」に関する実践交流を行う。
- ・ 全教員が見通しをもって実践を重ねられるように、実践発表の順番をあらかじめ伝えておく。
- ・ 発表の後は質疑応答の時間をとり、詳しく知りたい点などについて質問をし、理解が深められるようにする。



実践交流の際のポイント

- 「ICTを活用した学習評価」が有効であるかどうかについて実践を通して検証していく目的を伝え、様々な活用方法に挑戦していくことに重点を置く。
- 実践交流の際は、大型提示装置を活用して生徒の姿を示したり、画面共有をして生徒が提出したものが見やすいように工夫したりすると、より具体的に学習評価の方法について学び合うことができる。

「ICT を活用した学習評価」の実践交流による効果

教師側が意図をもち活用することで、様々な学習評価が可能であることを学び、教師同士の情報交流につながる。

- ・ 道徳において、主人公の気持ちを考える場面では、気持ちをグラフ化することで、自分の考えだけでなく、仲間の考えも視覚化され、客観的に考えることにつながった。
- ・ 共有ノートを活用することで、仲間の意見を学び、自分の考えを深めるとともに、仲間と実験結果を書き加えて、より精度の高いグラフを作ることもできた。

教科の「見方・考え方」を示し、学習評価を行うことで、単元の中の生徒の伸びを実感することにつながる。

- ・ 年度の初めに、教科の「見方・考え方」について教科部会で検討したり、他教科の先生方と意見交流をしたりする中で、各教科等で大事にしたい「見方・考え方」について共通理解する。その視点に立って、授業実践を行い、生徒にもその視点を伝えることで、生徒自身が見通しを立てて単元の学習に取り組み、最初の姿から出口の姿への成長につながった。



ICT 活用推進担当の指導のポイント

- 場面によっては、ICT を活用した学習評価が有効である場合と、紙媒体で評価した方が有効である場合とあるという視点も提示しながら、より効果的な学習評価の方法について提案を行っていく。

